

日本美術教育学会 シンポジウム

鑑賞教育の豊かな実践に向けて

東アジアからの発信

美術教育において「つくる」ことは、重要な柱です。その一方で「見る」ことが軽視される傾向にあるのではないのでしょうか。「鑑賞」がもつ豊かな広がりを見直し、実践に生かす方法を探ろうとする取り組みは、ここ数年で多くなりました。しかし、実際の鑑賞教育の現場を観察すると、鑑賞のありかたや対象となる作品の選定がよく検討されていないという問題点が浮かびあがってきています。

本学会では、過去に3度、東アジアの鑑賞教育をテーマにした講演会・シンポジウムを開催してきました。そこでは、伝統的に文化的土壌を共有してきた中国・韓国・台湾の現状を知る機会を得ることができました。今回は、これまでの研究成果を整理することに加え、今後の豊かな実践に向けての具体的な課題や目標を討議する場を設ける予定です。ジャンルも狭い意味での「美術」に限定せず、子どもの発達や成長にかかわる感性教育として見直していきます。現場の生の声が反映される、実りある集いになることを期待します。ふるってご参加くださるよう、ご案内申し上げます。

コーディネーター **神林 恒道** 立命館大学大学院教授
日本美術教育学会会長

パネリスト

萱 のり子 大阪教育大学 教授
梅澤 啓一 立正大学 教授
大嶋 彰 滋賀大学 教授
新関 伸也 滋賀大学 教授

- ・ 東アジアにおける鑑賞教育に関する研究経緯の概略(報告)
- ・ 東アジアにおける鑑賞教育の実践と課題 中国・台湾・韓国
- ・ 今後の鑑賞教育実践に向けて(提案と討議)

日時 平成17年12月2日(日) 午後1時～午後4時 場所 京都国立近代美術館 (京都市岡崎公園内)
日本美術教育学会・京都国立近代美術館共催